

「働き方改革」を存分に利用し

会社にいながら

★自分のライフスタイル★を

自由に設計しよう！

◆Vol.8◆

気になる海外の働き方改革

【中国の場合】



落合理

■ 推奨環境 ■

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader を無料でダウンロードしてください。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

■ 著作権について ■

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は落合理に属します。著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。 著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。このレポートのご利用は自己責任でお願いします。このレポートの利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

この度は私のレポートをダウンロードいただきましてありがとうございます。
ございます。

政府肝入りの改革事業の一つである「働き方改革」

皆さんうまく使って自分のライフスタイルを改善していますか？

フレックス、テレワーク、副業解禁、等々、魅力のある制度改革が進められています。

この改革に乗り遅れたら損です。

存分に使って自分のライフスタイルを改善していきましょう。

このメルマガでは、働き方改革で改善される制度をご紹介します。

皆さんが利用するためのきっかけとなればと思います。

今回は、「気になる海外の働き方改革【中国の場合】」についてご紹介したいと思います。

過去のレポート集

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.1◆会社のビジョンの共有

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.2◆3つの勤務時間制度を活用しよう

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.3◆有給休暇は自分と家族のために！

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.4◆テレワークをはじめよう！

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.5◆日々の仕事に対する意識改革！

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！◆Vol.6◆気になる海外の働き方改革【アメリカの場合】

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！◆Vol.7◆気になる海外の働き方改革【ヨーロッパの場合】

1. 中国の働き方

今回の気になる海外の働き方改革ということで、前回と前々回でアメリカとヨーロッパ主要諸国の働き方とその改革を見てきました。今回は、隣国なのにあまりよく知られていない？中国の働き方とその改革現状を見ていきましょう。

中国は数年前から経済大国第二位という地位になりながらも、未だ自分たちは発展途上国であるという認識を持っています（時と場合によってうまく使い分けている場合もある様ですけどね）。

中国人の働き方ですが、単純に年間の労働時間で見てみるとおよそ2000時間を超えているそうです。先進国では、1300時間から長くとも1800時間程度までですので、中国人の労働時間が長く、過労状態であることがわかります。

過労状態が如何にひどいかは、過労死者数が年間60万人以上もいるということらしいです！一日にするとおよそ1600人が過労による病死や自殺で亡くなっている計算になります。すごい人数ですね。

中国人は日本人と比べて、合理的な性格の人が多いようです。そして、働くことの最終的な目標は「お金を稼ぐこと」なので、

中国人の働き方に関する考えはとても合理的です。つまり損する事はしない、損得感情あるいは勘定で動く事が多いと思われ
ます。

中国に行くと、接客業は日本の「おもてなし」の精神での「笑
顔で丁寧な接客」は中々期待できませんね。お客さんが来ても
仏頂面で対応したり、スマホの画面を見ながら対応したりする
光景をよく見かけます。

全員がそうではないと思いますが、概して中国人は仕事におい
て売り上げにつながらないことはムダだというように考え、こ
のような行動をとるのだと思います。

もう一つ中国における大きな特徴として、内陸農村部と沿岸都
市部の経済格差がありますね。

中国では 1970 年代末から、社会主義体制を維持しながらも市
場経済を導入していこうとする「経済改革・対外開放政策（改
革・開放政策）」に踏み切った歴史があります。

この狙いは、中国が外国資本や外国企業の進んだ技術の導入が
目的でした。沿海部の経済特区などで税制面の優遇措置をとつ
たことで、中国南東の沿海部に「経済特区」や「経済技術開発

区」が設けられ、外国企業の投資が集中するようになりました。

外国企業も、資源に恵まれ約 13 億人もの人口を有する中国に、安価で豊富な労働力があることや、将来的に大きな市場として成長する可能性があることを見込んで積極的に投資しました。

こうして、中国の沿岸域は大きな発展をとげました。人々の生活水準も向上し、都市化も急速に進みました。都市住民と農民の 1 人あたりの所得比は全国平均で約 3 倍とも、それ以上になっているとも計算されており、沿海部の富裕層は、世界中のブランド品を購入したり、海外の不動産に巨額の投資をしたりするようになりました。

その一方で、内陸農村部では、農業だけで豊かになる収入を得ることが難しく、ほかに雇用の機会も少ないため、工業労働者として多くの人口が沿海部の都市へと流出するようになったのです。

このため、農村には高齢者や子どもたちばかりが取り残され、沿海部の都市と内陸部の農村の経済格差がだんだんに広がっていったのです。

中国とえば、日本から見ると大体北京、上海、杭州、香港、

などの都市部の事情に目が行ってしまいますよね。その都市部では、今では日本でも古い言葉となってきましたはいますが、終身雇用という考え方が根強い日本とは違い転職が盛んです。

その理由として中国人は賃金への不満を第一位に挙げています。自分の能力と賃金が見合わないと感じたら、次のステップへ進もうと転職をする人が多いようです。

日々、自己啓発・学習のための時間を確保しスキルアップを怠らない勤勉さも、ステップアップの原動力となっているようです。会社よりも自己のための考え方が根底にあるのかもしれないね。

日本でも昨今、転職をする人が増えてきてはいますが、その理由で多く聞くのは職場の人間関係、労働条件や勤務地などへの不満です。

欧米と中国は、転職が自分の待遇改善やスキルアップであり、日本とは違うモチベーションが多いのかもしれませんが。この点は重要なポイントかもしれませんね。

もう一つ、欧米と中国が似ている点として、女性が第一子の出産後、約7割の女性が離職を選択する日本とは対照的に、中国

の女性の就業率は世界トップクラスの北欧に迫る勢いであることです。

産前産後休暇に大差はないですが、中国は日本に比べ産後休暇への意識が若干高いことには注目すべきです。出産後1ヶ月はとにかく産後の身体をケアする、という期間が大切にされており、実家の親からの強力なサポートを得られるケースが多いようです。

また、取得できる産後休暇日数も、日本より約1か月多く設定されています。（一方、産前休暇の日数は相対的に少ない。）この産後休暇の間に身体のケアやメンテナンスを行い、母体の早期回復が実現できているようです。

また、子育てにも実家の親が泊まり込みでサポートしたり、子どもが小さいうちは祖父母が田舎で預かったりなど、女性の就労継続を目指しやすい文化が根付いています。

結果として有能な人材が失われずにいることが GDP の伸び率にも影響していると言えるでしょう。

2. 中国の働き方改革

欧米の様に、様々な制度が展開されているわけではありませんが、中国政府は 2030 年までの週休三日制の実現に向けた取り組みを行なうことを発表しました。欧米や日本とは違ったやり方で注目すべき点だとは思いますが。

しかし、労働時間を短縮するためには、労働生産性を高めて生産効率を上げる必要があります。それができなければ、休んだ分、単純に残業の時間が増えるだけです。適切な労働管理が求められるようになることでしょう。

また、上に述べたように、中国人は合理的で仕事の目標がお金を稼ぐ事だとすると、働き方改革は日本とは別な意味合いになるかもしれません。

日本人が働きやすい環境に向けた改革するとしたら、中国はお金を稼ぐ環境を改革するという、意識の差を認識する必要があるかもしれません。

週休 3 日も、日本人的感覚ですと仕事が大変だからその環境を改善するためと考えてしまいますが、もしかしたら中国人は週 5 日働いても売上げがあがらないのであれば、週休 3 日の方がいいかも、という意識であれば取り入れるのかもしれない。

3. 中国と日本との関係

最近は、日中関係のいざこざが多く、メディアでも中国関連の報道というとネガティブなイメージのものが多い印象がありますね。

過去の戦争の歴史を引きずって、メディアの影響もあり、多くの日本人は、中国人の大部分が反日だと思っているかもしれません。

しかし、実際は色々な現実があるということだと思います。確かに強烈な反日の人もありますし、親日の人もある、東京の街を歩いているとたくさんの中国人観光客がいることに気づきます。

メディアの報道だけで、中国についてすべてを知ることは不可能であり、むしろ余計な情報として自分の判断のバイアスになってしまう恐れがありますね。

むしろ、自分の経験から中国の文化や人々の性格について考える必要があることはみなさんおわかりでしょう。

私も、中国人とは何人かと仕事関係でお付き合いがあります。まず、第一に感じる事は、同じアジア系の人種であるのですが、

欧米の人たちよりも付き合いづらい感覚があります。

これはメディアによってもたらされる先入観や過去の歴史の知識などもありますが、それらに加えて、そもそも彼らが何を考えているかわからない、という不安感が大きいかと思います。

多分、それはお互いの文化や歴史を理解していないからでしょう。日本人は戦後文化も社会も欧米追随型になりました。中国などのアジア圏のそれらはきちんと見てこなかったのです。

政府も企業も中国との付き合い方は慎重です。それはしょうがないことだと思うのですが、必要以上に慎重でありすぎる場合が多いし、今や世界第二位の経済と世界第一位の人口の恐怖からか、あるいはなんでもコピーしてしまうことから「飲み込まれてしまう」とか「著作権も取られてしまう」とかの恐怖の方が強いのです。

私の仕事上の付き合いの中国人達も、日本と是非協力したいと積極的です。しかしながら、明らかに協力すると日本の技術が流れていくだけで、日本側にメリットが見つからないのです。

こうした見知らぬ隣国の大国である中国との付き合い方は今後大きな課題であると言えるでしょう。

働き方改革からは大分ずれてきてしまいましたが、もう少しだけ中国の特徴を見てみます。

中国では「わからないことはわからない」、「できないことはできない」というようにその場で思ったことを率直に答える傾向があります。しかし、考えてみるとこれは中国だけでなく、アメリカなど他の海外の国でも同様ですね。

彼らは、答えるのが面倒くさいから適当に答えているのではなく、ストレートに「わからないことはわからない」と相手に伝えることがベストであるという考え方を持っているのです。

なんとなく日本人同士だと心が通じている感覚からか、お互い「言わなくてもわかる」という文化が根付いています。しかし、中国では欧米同様に通用しないようです。

また、中国人の主張が強いというのは、誰もが一度は感じたことがあるのではないのでしょうか。電車の中や店内、エレベーターの中など、所かまわず大きな声で話している中国人を見かけることがよくあります。

これも中国人にとっては日常の事であり、日本人にとっては非

日常です。私が考えているのは、これは大陸と島国の文化の違いではないか？と思っています。大陸の広い大地での人の接し方と、島国で単一民族、かつ人との距離が近い場合の人の接し方は違うのだろうか？と思うわけです。

4. まとめ

働き方の選択という意味では、おそらく中国人は日本人以上に割り切って、また合理的に考えるのでしょう。

もし、そうした効率化をすることにより稼げる、という判断が下されるのであれば、中国では今後は働き方改革が爆発的に広がるのかもしれませんが。在宅勤務だとかサテライトオフィスだとかが急速に整備されていくような気がします。

しかし、それだけでも北京や上海、広州の通勤渋滞が緩和されるのはよいことです。北京に行ったときに通勤での車の渋滞はものすごく、長蛇の車の列から出る排気ガスは、有名な北京の大気汚染の要素の一つです。昔はみんな自転車でしたけれどね。

成長は鈍化しているものの、中国の国民の所得は増えており、働き方改革で仕事のやり方の選択肢が広がっていくと、それに伴う消費や様々な機会が増えていくのでしょう。

最後に、一つだけ知り合いの中国人に言われた面白い？怖い？逸話をご紹介します。

私の仕事の友人がある時に、世界地図を見ていてこう言いました。「ここに北京があるよな。そして、西には西安がある。南には南京だ。東をみるとそこには東京（トンキン）があるんだよ。」って。

これを聞いて、私はしばしばびっくりしてしまいました。日本人には思いつかないことだ・・・

中国人はみんなそう思っているのか？と・・・

特典

ここで裏プレゼントです！



これで、ネットで稼げる感覚を体感して下さい。
再配布可なので、あなたの特典としてもお使い出来ます。

プレゼント請求ページはこちらから

※普段お使いの PC アドレスで登録して下さい。

最後までお読み頂きありがとうございます！

これからも宜しく申し上げます。

■ 作者 : 落合理

■ メールアドレス : mail@samyuint.com

■ メルマガ名 : 働き方改革を上手にを使って自分の理想のライフスタイルをつかもう

■ メルマガ URL :

<https://1lejend.com/stepmail/kd.php?no=JqOansjEv>